

お金と賢くつき合う

あんびる えつこ Ambiru Etsuko 文部科学省消費者教育アドバイザー
「子供のお金教育を考える会」代表 (<http://www.kids-money.jp/>)。著書に「アクティブ・ラーニングで楽しく！ 消費者教育ワークショップ実践集」(大修館書店、2018年)ほか。

お金理解度チェック

- ①自分のお金が今どこにいくらあるのか、正確に把握している
 - ②お金は目的によって分けて運用している
 - ③安全で高金利な金融商品はないと思う
 - ④投資も視野に入れて考えるようにしている
 - ⑤金融商品を契約するときには、しくみをよく理解し、説明書なども保管している
- さて、すべての項目に できたでしょうか。解説を読み、理解を深めましょう！

「お金と賢くつき合う」とは、どういうことでしょうか。実はお金には2つの大きな特徴があります。1つはお札やコインそのものに価値があるわけではなく、交換することで役に立つものであること。そしてもう1つは、あの世まで持っていくことができないということです。

ですから、「お金と賢くつき合う」とは、この世を生きるために、必要な時に必要なものと交換できるようにお金を準備しておく……ということに他なりません。では、賢くお金を準備するための5つのステップを見ていきましょう。

ステップ 1 まずは自分の資産を把握しよう

クレジットカードや電子マネー、スマホ決済と、近年、急速にキャッシュレス化が進んできました。便利になった一方で、決済方法が分散

され、総支出額が把握しにくくなっています。資産運用を考える前に、ひとまず複雑化したお金の流れを含め、全体を把握してみましょう。

まず作成したいのが、どこの金融機関、口座にいくらお金があるかを記した金融資産一覧表です(図1・ステップ1)。株式などは、現在のおおよその評価額を記入します。定期預金などは、満期になる時期も付け加えておきます。

ステップ 2 資金の「目的」を考えよう

次に、これからの予定を考慮し、資金の目的を設定していきます(図1・ステップ2)。

①お財布資金

日常の決済用のお金です。どの決済方法が、どこの金融機関にひもづけられているのか確認。毎月の出金額から、いくら用意しておけばよいか把握し、確保します。

②目的確定資金

教育資金、旅行資金など使う時期や目的が明確なお金は、①のお財布資金とは別に管理します。万が一の時の資金として、月の生活費の6～

図1 金融資産一覧表の例

ステップ 1						ステップ 2		ステップ 4	
金融機関	商品名	満期日 (償還日)	現在 評価額	(購入額)	備 考	目 的		運用方針	
〇〇銀行	普通預金		30万円			①お財布資金		貯蓄	
〇〇銀行	定期預金 (1カ月)		200万円			②目的確定資金 (万が一の時用)		貯蓄	
◎△銀行	定期預金 (1年)	2020年 8月	200万円			②目的確定資金(家族旅行) ③余裕資金		貯蓄 投資へ?	
△△銀行	積み立て 定期		122万円		毎月3万円 積立	②目的確定資金(教育費)		貯蓄	
◎◎証券	××株 投信	2025年 12月	51万円	50万円		③余裕資金		投資	

12カ月分が用意できていると安心です。

③ 余裕資金

当面、使う予定のないお金は「余裕資金」です。投資などで運用することができます。

ステップ 3 リスクとリターンの関係を知る

金融の世界では、リスクは「リターンの振れ幅の大きさ」を表します(図2)。リターンは、運用によって得られる収益や損失のことです。

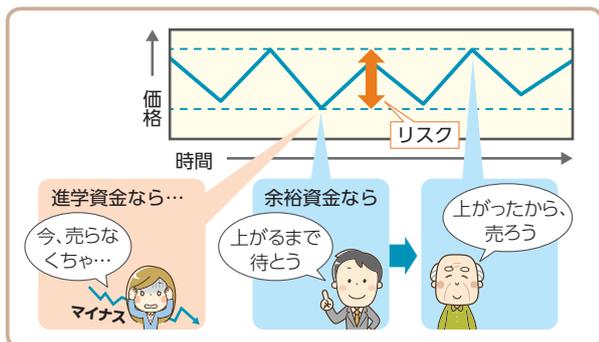
一般的にハイリスクといわれる金融商品は、振れ幅が大きく、高い収益が期待できる一方、大きく値下がりする可能性もあります。逆にローリスクの場合、振れ幅が小さく、大きく値下がりする可能性が低い反面、期待できる収益も小さくなります。リスクとリターンの関係は「ハイリスク・ハイリターン」「ローリスク・ローリターン」といわれています。

資産運用は、リスクとリターンの関係を考慮して行う必要があります。例えば進学資金をふやしたいからとハイリスク商品で運用していたら、大きく値下がりした時に子どもが進学を迎えてしまい、十分なお金が用意できないという事態にもなりかねません。しかし当面使う予定がないお金なら、値上がりを待つことが可能です。どの程度リスクを許容できるのか、金銭的、時間的な余裕を見極めることが大切です。

ステップ 4 「貯蓄」「投資」「投機」の違いを踏まえて運用方針を決めよう

リスクとリターンの関係を理解したら、運用方針を考えていきましょう(図1・ステップ4)。

図2 リスクと取引のタイミング



例えば、円建ての預貯金はローリスク・ローリターンの代表的なものです。今は超低金利ですから、お金をふやすというよりも、確実に元本を貯めておく「貯蓄」として考えられます。

「投資」は、将来の成長を見込んで、株式や投資信託などの有望な投資先に、資金を長期的に投じるものです。外貨預金も、その通貨の国の経済の成長性に期待し「投資」するものと考えられます。リスクやリターンの大きさもさまざまですが、基本的には余裕資金で運用します。

一方、「投機」は、株式や暗号資産、FXなど、比較的値動きが激しいものを対象に、機を見計らって資金を投じ、短期に売買して大きな収益をねらいます。「投資」が、対象の企業などの事業や理念などに共感し資金を投じるのに対し、「投機」は値動きに対して資金を投じるもの。「投機」は、ハイリスク・ハイリターンであるため、計画的な資産運用には不向きです。

ステップ 5 金融商品のしくみを理解しよう

運用方針が決まったら、金融商品を検討します。分かっているつもりにならず、商品のしくみなどをきちんと理解するようにしましょう。

気を抜いてはいけない一例を挙げましょう。お財布代わりに使っている銀行の口座で、気づいたら普通預金の残高がマイナスになっていたという経験はありませんか。

実は、普通預金に定期預金などがセットされている「総合口座」には、一般的に「自動融資機能」が備わっています。これは、普通預金の残高を超える自動引き落としなどがあった場合、定期預金などを担保として定期預金額の90%といった上限のもと、自動的に融資が行われるサービスです。借入利率は多くの場合、定期預金の利率に0.5%程度上乗せした利率。便利だからと頼っていると、定期預金の金利を大きく上回る利率で「借金」をしていることになります。

身近な金融商品でも油断大敵。心して金融商品の理解に努め、しっかり資産を管理・運用していきましょう。